

2023年1月1日の記事

## 【館長より新年のご挨拶】

新年明けましておめでとうございます。

さて、当館が設置されている本学一号棟(旧・東京市麻布区役所庁舎、国の登録有形文化財(建造物)の耐震化工事ならびに周辺環境整備の工事が完了し、昨年の秋から新たな企画展とともにリニューアルオープンをいたしました。まだ未完成の展示室もありますが、順次整備に着手してまいります。

今年は、本館の名称を「大学附属博物館」に変更し、本学の歴史や獣医・畜産・生命科学の総合的博物館へ発展させる計画です。もちろん、ワイルドライフ・ミュージアムの名称を引継ぐ展示室はさらに充実させてゆく所存です。

今年も引き続きFacebook等で当館の情報を発信してゆきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

またしてもコロナ禍の中での新年となりましたが、一日も早く終息し、再び皆様をお迎えできるよう願っております。

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム  
館長 羽山伸一



## 【資料紹介 13】ニホンノウサギ剥製

今年卯年ということで、新年最初の資料紹介ではニホンノウサギ(*Lepus brachyurus*)の剥製について解説します。

写真は、当館が所蔵するニホンノウサギの剥製です。個体に関する詳細な記録は残っていませんが、2015年の博物館の設置に合わせて資料として購入されました。

ノウサギはウサギ科ノウサギ属のウサギの一種で、アフリカ大陸、北アメリカ大陸、ユーラシア大陸に広く分布しています。この中でも、本州・四国・九州に生息する日本固有種がニホンノウサギです。展示中のニホンノウサギのラベルを見て、「日本の兎」だと思われる方がいるようですが、漢字で書くと「日本野兎」となります。名前の通り野原で生活するノウサギは、巣穴を持たず藪や木の根本などを休息場としています。

ちなみに、ペットとして飼われているウサギは、ウサギ科アナウサギ属のアナウサギを家畜化したもので、野生のアナウサギは名前の通り巣穴を掘って生活しています。本来は日本には生息していませんが、一部の地域では外来種として分布しています。

(学芸員 石井)





- ① 展示中のニホンノウサギ剥製
- ② ニホンノウサギの全身：剥製の個体は全身が茶褐色ですが、積雪する地域に生息する個体群は、冬になると耳の先端を除いた全身の毛が白くなります。
- ③ 横から見たニホンノウサギ：野原を走り回るノウサギは、穴を掘って暮らすアナウサギに比べて長い足を持ちます。
- ④ 前からみたニホンノウサギの足：指の本数は前足が5本、後ろ足が4本です。
- ⑤ 横からみたニホンノウサギの足：ウサギの仲間は足の裏に肉球を持たず、足の裏全体に毛が生えています。
- ⑥ ニホンノウサギの耳：大きな耳はウサギの特徴の一つです。毛細血管が集中している耳は、音を聞くだけでなく体温調節にも役立っているそうです。

## 【フォロワー 80 人記念】

当Facebook ページのフォロワーが80人を超えました。これを記念して、今回は本学の前身校である日本獣医畜産大学時代に発行した、「日本獣医畜産大学 創立80周年記念誌」をご紹介します。

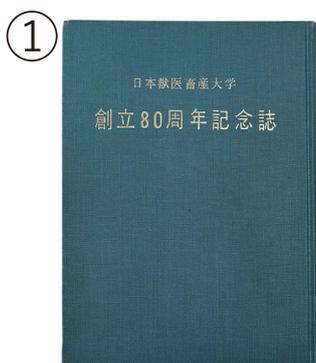
こちらの本は、その名の通り日本獣医畜産大学が、本学の最初の姿である私立獣医学校の設立から80年が経過したことを記念して1961年に発行した非売品の書籍です。

内容としては、大学の沿革をまとめた「日本獣医畜産大学沿革大要」と日本獣医学校時代以降の卒業生の手記をまとめた「卒業生の回想」の2部構成となっています。

本の冒頭には日本獣医畜産大学の目黒校舎や各時代の学長、実習の様子等の写真が多数収録されています。

本学の記念誌はその後100年史や130周年史、直近には140周年史が発行されていますが、80周年史以前の記念誌は現在までに発行が確認されていないため、現状では大学の歴史をまとめた最も古い記念誌となっています。これ以前の歴史に関する資料や記念誌・記念品等の情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひ博物館まで情報をお寄せください。よろしくお祈いします。

(スタッフ 廣瀬)



- ① 表紙
- ② 背表紙には日本獣医畜産大学時代の校章がデザインされています
- ③ 冒頭部分の昔の写真の紹介ページ

## 【活動日誌 117】 東京農工大学科学博物館からの見学

現在当館では「2022年度企画展 獣医学教育用掛図展～獣医解剖学の系譜と本学の教育～」を開催しています。先日、東京農工大学科学博物館から学芸員の先生2名が企画展の見学にいらっしゃいました。

東京農工大学科学博物館は、本学のすぐ近くのJR中央線東小金井駅にある博物館で、獣医学教育用掛図を含む複数の掛図を所蔵しています。掛図の修復や展示について検討をしているとのことで、当館スタッフがこれまでに行った掛図の修復や現在の展示、掛図の保管状況について説明をしました。

当館は掛図120点とポスター 2点で構成される「日獣大獣医学教育用掛図コレクション」を収蔵していますが、コレクションの中には劣化が進んでしまった掛図が含まれています。また、学内から状態の悪い掛図が新たに見つかったこともあり、掛図の修復と管理は課題の一つとなっています。これからは農工大と情報交換を行いながら掛図の活用を続けたいと考えています。

(学芸員 石井)

### ■東京農工大学科学博物館

<https://www.tuat-museum.org/>

### ■日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム 展示紹介

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/about/exhibition.html>

企画展の情報はこちらのページをご参照ください



- ① 企画展の様子をご覧いただき、当館が行った掛図の額装の事例を紹介しました。
- ② 博物館スタッフが企画展の解説パネルの内容を紹介しました。

## 【大学史の紹介 21】 日本獣医畜産大学開学当初の関係者

前回の大学史の紹介では、本学が日本獣医畜産大学に昇格するまでの経緯についてご紹介しました。今回は、日本獣医畜産大学の開学当時の関係者についてご紹介します。

日本獣医畜産大学の初代校長は、日本獣医畜産専門学校長から継続して井口賢三が就任しました。大学となった当時の教員には、教授として学長の井口賢三のほか、加藤浩、赤沢笹雄、島村虎猪、大澤竹次郎、小野豊、大条方義、中村良一、清水重矢、小山彰、井口ヤスなどが、助教授に黒川和雄、清水小次郎、阿部芳雄、勝木辰男などが、また講師に柴内保次、藤沢正豊、阿部留太郎、葛西勝弥、黒沢亮助、犬飼哲夫、原敬造、湯地定武、三浦道雄、西山太平などがいました。

教員はそれぞれが各分野で業績を残した人物ですが、ここではその中から3名を紹介します。清水重矢は私立日本獣医学校の卒業生であり、医動物学を専門とした人物です。1970年の定年退職まで本学で勤め上げ、日本獣医畜産大学の第一号の名誉教授となりました。黒川和雄は日本獣医畜産専門学校時代から本学の教員として関わった人物で、家畜外科学を専門としました。犬フィラリア症の治療と予防において大きな業績を残し、その他の多くの功績により後に勲三等瑞宝章を受けました。勝木辰男は日本高等獣医学校を優秀な成績で卒業した人物で、後に本学の教授となり、家畜飼養学研究室で家禽に関する研究を行っていました。勝木教授は所有していた獣医学や畜産学の専門書を退官時に勝木文庫として学内に残していかれましたが、近年それらが博物館に寄贈され、当館の資料となりました。

本日はここまで。大学史の紹介22では、学校としての歴史の最終回として、日本獣医畜産大学が現在の姿である日本獣医生命科学大学へと改名するまでの出来事をご紹介します。

■前の記事はこちら：大学史の紹介20(2022年12月1日掲載)

<https://bit.ly/3Fcbomf>

①



日本獣医生命科学大学  
付属ワイルドライフ・ミュージアム

出典：学苑 第七号 日本高等獣医学校報 1943

②



日本獣医生命科学大学  
付属ワイルドライフ・ミュージアム

③



日本獣医生命科学大学  
付属ワイルドライフ・ミュージアム

- ① 錬成道場「紫雲荘」。当館所蔵資料である日本高等獣医学校時代の冊子「学苑 第7号」に掲載されていたものですが、日本獣医畜産大学に昇格した当時の大学の建物としての記録が残っています。
- ② 当館所蔵資料である黒川先生の著書「犬フィラリア症の歴史-難病の克服まで-」の表紙。贈呈用に先生が作成されたもので非売品のため入手は困難です。
- ③ 当館に寄贈された勝木先生が所有されていた蔵書「進化新論」(明治38(1905)年発行改訂増補版)。著者の石川千代松は進化論を日本で初めて体系的に紹介した人物だとされています。右上に勝木蔵書の印が押されています。

## 【International Squirrel Appreciation Day】

本日1月21日は国際リス感謝デー(International Squirrel Appreciation Day)です。2001年にアメリカのノースカロライナ州にある野生動物保護施設(Western North Carolina Nature Center)のスタッフにより提唱されました。

リスと言えば、写真の様な小さな体にふさふさのシッポを持つ姿を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、モモンガやムササビ、プレーリードックなどもリス科の動物です。

当館ではニホンリスの剥製とムササビの剥製を収蔵しており、現在は自然系展示室で見ることが出来ます。

#InternationalSquirrelAppreciationDay #SquirrelAppreciationDay

■ICSR International Squirrel Appreciation Day

<https://i-csrs.com/international-squirrel-appreciation-day>





- ① 展示中のニホンリスの剥製
- ② ニホンリスの全身：冬毛と夏毛で色が変化します。剥製は冬毛の個体で、腹部を除き灰褐色の毛が生えています。夏毛の場合は灰褐色の毛が赤褐色に生え変わりますが、腹部の色は白いままです。
- ③ ニホンリスの耳：耳の先端にある長い毛は冬毛の特徴です。
- ④ ニホンリスの尾：ふさふさとした毛が生えています。
- ⑤ ニホンリスの歯：ニホンリスの前歯（切歯）の前面は硬いエナメル質で覆われており、オレンジ色をしています。
- ⑥ 展示中のリスの剥製とムササビの剥製  
ニホンリスとムササビは姿形が異なりますが、どちらもリス科の動物です。

## 【資料紹介 14】牛史全

本日は、当館で所蔵している書籍の中から「牛史全」を紹介します。

「牛史全」は、本学の図書館より移管された書籍の中の1冊で、中でも一番古い書籍です。明治20(1887)年に農商務省農務局が発行した書籍で、纂著は三毛昌、校定が村上要信とされています。この本の内容は、アメリカやイギリスの獣医学者や農学者らの著作から牛の歴史に関する部分をまとめて訳したものであるとされていて、いくつかの牛の種類については具体的に記載されています。現在歴史系展示室で展示している家畜医範と同じく、明治期の畜産学の教科書的な役割を果たした書籍の1冊と考えられる貴重な本です。

これまでに図書館から受け取った書籍の中には本学の教授であった井口賢三が図書館に寄贈した本が含まれており、この本も井口賢三が図書館に寄贈した本である可能性が出てきました。井口賢三は本学に来る前に北海道大学で教鞭を取っていたのですが、同じく北海道大学に所属していた葛西勝弥という獣医学者が、牛学に関する自分の蔵書をすべて井口賢三に譲ったそうです※。牛史全の扉には「葛西蔵書」という蔵書印が押されているため、この本も葛西勝弥が井口賢三に譲り渡した本の中の1冊なのかもしれません。

井口賢三が大学に残した本の詳細は、現在博物館で調査中です。葛西勝弥とのつながりも含めて、これからも情報収集を続けたいと思います。

(スタッフ 廣瀬)

※参考：大竹 修. 2015. 日本の近代獣医学史 - 人材育成の名人 葛西勝弥 -. 動物臨床医学24(2)92-95.

〈資料詳細情報〉

[名称]牛史全

[纂著]三毛昌

[校定]村上要信

[発行年]1887年

[サイズ]194×138×16(縦×横×厚さ mm)

2022年1月26日の記事

①



日本獣医生命科学大学  
付属ワイルドライフ・ミュージアム

②



日本獣医生命科学大学  
付属ワイルドライフ・ミュージアム

③



日本獣医生命科学大学  
付属ワイルドライフ・ミュージアム

- ① 表紙。図書館で普通に利用されていた書籍であるため、表紙に紙のカバーが付けられている。
- ② 農商務省農務局が著作権を持つことを表示する印が押されたページ。
- ③ 扉。葛西蔵書の印が押されている。

## 【活動日誌 118】学内からの資料の移管

当館では、学内にある貴重な資料の散逸を防ぐため、学内の他部署からの資料の移管を受け付けています。昨年は学内の校舎が2棟解体されたこともあり、校舎内の倉庫に保管されていた大学の古い周年史やアルバムなど、様々な資料が博物館に持ち込まれました。

記事に添えた写真は先日行った整理作業の様子です。移管の際は、いつ・どの部署から・何を移管したのか、しっかりと記録に残すようにしています。先日の作業では、それぞれの資料の状態をチェックし、点数やタイトルを記録しました。

今年度内の移管を予定している資料は、かつて本学の付属牧場で飼育されていた競走馬に関するものや、貴重な液浸資料など多岐にわたります。皆様にご覧いただけるよう、これからも資料の整理を続けたいと思います。

(学芸員 石井)

### ■【活動日誌116】新たな掛図の収集

<https://bit.ly/3GaAm7d>

解体された校舎からは、この記事で紹介したような資料も見つかっています



- ① 倉庫に保管されていた資料。
- ② 整理作業の様子。1点ずつチェックし、情報を整理します。
- ③ 資料の清掃の様子。長年倉庫に眠っていた資料はホコリがたくさんついているので、収蔵庫に入れる前に念入りに清掃を行います。